

世界農業遺産国際スタディ・プログラム（イタリア）

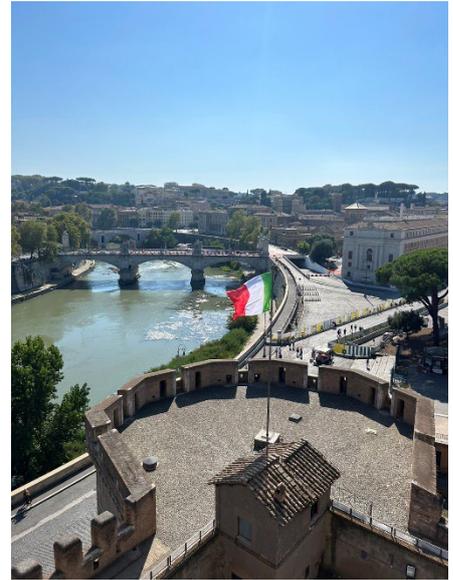
国際文化交流学部 国際文化交流学科 小坂桃子

期間：2023年9月9日～2023年9月17日

私が参加したのは、石川県と国連大学が共同で今年度初めて開催した「世界農業遺産国際スタディ・プログラム」です。このプログラムで、イタリアにある国連食糧農業機関（FAO）、国際農業開発基金（IFAD）そして国連世界食糧計画（WFP）などの国際機関に訪問しました。またイタリアの食文化を学ぶために、オリーブ農園やワイナリーにも訪れ、学びを深めました。

この研修は1週間ほどの短いものでしたが、私自身にとって貴重な経験になったと感じているので、この研修の紹介をさせていただきたいと思います。

オリーブ農園やオリーブオイル工場の訪問を通じて、イタリアにおけるオリーブオイルの重要性を学びました。研修中も食事をする際に、オリーブオイルを使用した料理が多く登場しました。調味料としてだけでなく、化粧品や燃料としても使用されており、オリーブオイルの活用方法の多様性を学びました。現在私は国際観光・地域創生コースに所属しており、観光について興味があるので、石川県の食材を絡めた観光なども考えていきたいと思っています。



私が最も印象的に感じたのはFAO訪問です。ここではFAOの歴史や活動内容を学び、施設の案内を受けました。またFAO職員の方に、能登研修を通して考えた石川県の地域活性化についてのプレゼンテーションを行いました。すべて英語で行ったのでとても不安でしたが、職員の方と意見を交流することもでき、貴重な経験になったと感じています。国際的な問題について学べるだけでなく、英語力の向上にもつながったと感じています。国際機関であるため、多様な人種の方が働いていました。

この光景を見て、世界的な課題に対して多様な視点を用いながら、課題を解決しようとする姿に感動しました。これから私自身も、1つの課題に対して多角的な視点を用いて解決したいと思っています。

このプログラムを通して、ローカルな視点だけでなくグローバルな視点で社会問題や環境問題について考えることができるようになりました。特にIFADやWFPでは、食の問題を解決することがその他の社会問題にもつながっていることを学びました。食料問題に対し当事者意識を持ち、行動することがより良い世界をつくるのだと思います。これからは国内外の問題に目を向けながら、大学での学びに活かしていきたいと考えています。